

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

グローバル社会を生き抜く力だけでなく、真のリーダーとして世界を舞台に活躍でき、人類に貢献できる人材育成をめざす

- (1) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
- (2) 多文化、異文化を受け入れることのできる深い包容力と鋭い人権感覚（心のグローバル化）
- (3) 5年後、10年後を見通す洞察力と世界を見据えた視野の広さを併せ持ち真に世界でブレイクスルーできる力
- (4) 生徒の希望する進路実現が図れる学校として、生徒・保護者・地域の願いに応えられる学校をめざす。
また、情報発信に努め、広く府民に理解される学校にする。
- (5) 「挑戦」と「成果」をめざし、進学のみならず色々な大会やイベントでの実績を出す。

2 中期的目標

本校の教育活動の中心である国際教育と理数教育の2本柱のもと、生徒たちの学習意欲を高めつつ、生徒たちの将来に向けた夢と希望の実現をめざして、「国際社会に貢献できる人材」と「科学技術立国のわが国をリードする人材」の育成を図ることとする。下記の中期的目標を達成したい。

1. 学力向上の取組み強化

国際科学高校に改編後、国公立大学への進学者数は現浪合わせて50～70人で推移していた。しかし、ほとんどの生徒が入学時に国公立大学を希望している。学校内部の指導を徹底するとともに、教育産業との連携を強化し、3年間を見通せるスケジュールを作り、生徒の進路実現が図れるよう学力向上の取組みをいっそう強化する。目標として国公立大学合格者数は前年度比で25%増をめざす。

(1) 「わかる授業」をめざして、教科指導力を向上させる。

授業アンケートの活用をさらに図るとともに、全教員に対し年3回以上の相互授業見学を行う。また、特に新任教員や若手教員の増加に対応して教科指導力の向上をめざす公開授業や研究授業等を実施する。今年度より新採3年までを含め、校長主催で原則、月一回で学習会を持ち、教科指導力向上のみならず、社会人としての意識や人格形成に資する取り組みを行う。現在20台あるタブレット型PCの台数を増やし、指導方法の工夫を改善し活用する。

(2) 進学講習の充実を図る。

進路実現に向けた校内での進学講習を充実させるため、2年生からの講習を企画するほか、主要5教科での講習の開始をめざす。また、自習室の活用をさらに充実させる。今までの土曜日の教育産業による北畠講習を積極的に推奨し、2クラス同時開講と、のべ100名以上での開講を目標にする。

(3) 引き続き、自習室の活用促進を図り、早朝・放課後での利用時間の拡大と利用者数の2割増をめざす。特に1年生・2年生への利用拡大を工夫する。同窓会特別奨学金、「ケンブリッジ研修」を活用し、1・2年での語彙力強化をめざす。

2. 国際・科学高校としての取組み強化

(1) TOEFLに力点を置く。本校は日常的に英語を使う環境があり、英語でのディベート、プレゼン、スピーチ等の国際・科学高校としての英語学習を行っている。今後府の教育方針に準じ、SETを大いなる活用を行い、本校が行っている教育と相まって、TOEFLに向けた教育を一層推進する。成果としてはスコア80以上を4名、60以上を25名とする。また保護者の要望の強いTOEIC対策も継続する。

(2) 国際交流・海外語学研修の拡大維持

本校の国際交流活動や海外語学研修には生徒・保護者の期待が特に大きい。平成24年度から拡大したアメリカ・シアトル語学研修、カルフォルニア交換留学、ニューヨーク交換留学、アジアフィールドスタディツアーの新規4事業を維持継続するとともに、従来から行っている、オーストラリア語学研修や韓国（チョンダム高校）、台湾（中山女子高級中学）との姉妹校関係をさらに発展させる。また25年度より始まった同窓会の支援によるケンブリッジ語学研修も含め、海外8研修の充実をめざす。全員参加の台湾スタディツアーを除く、海外研修の参加者の目標を100名以上とする。また海外からの留学・訪問等も積極的に受け入れる。また、直接海外の大学へ進学できるよう指導に努める。

韓国や台湾のようにアジア圏の学校との姉妹校関係だけでなく、英語圏であるオーストラリアの学校と姉妹校関係を結ぶ。

(3) SSHの更新と英語力を結びつけた取組みの強化

従来行っているSSH活動は引き続き継続する。2年後の更新に向けて次の二点に留意し、更新の準備に備える。

① 「理科」と「英語」の連携。課題研究や成果発表での一層の英語力向上をめざす。

② 活動の「評価」についての研究を進める。

国際科学発表会の毎年開催を維持し、国際的な視野で語学力の向上と科学的探究活動の取組みを充実させる。

3. 人権教育の視点での豊かな国際感覚の育成と、自律心の醸成

(1) ユネスコスクール加盟の特色を生かした平和学習・人権学習の充実

本校の多彩な活動の中で、平和学習と人権学習をメインとするESD教育の実践をめざす。特に、ルーツを海外にもつ生徒や障がいのある生徒などの人権を守る教育を維持し、海外での国際交流や国際科学発表会の実践を通して豊かな国際感覚の育成を図り、多文化共生の理念を学ばせる。

昨年度行われた成功裏に終わった、ユネスコ世界大会のように、イベントでの成果のみならず、ESD学習の成果の「見える化」をめざす。

(2) 国際人として求められるマナーの向上と社会的規範意識の醸成

「住吉是」・「挨拶をする・時間厳守・公共の場の清掃」を徹底させると同時に、生徒の自主自律を更に進め、国際人として必須のマナーやルールを遵守する姿勢を育成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【結果】生徒の肯定的回答が7割以上は49項目中41項目、8割以上は25項目、保護者の回答回収率は63%でそのうち肯定的回答が7割以上は40項目、8割以上が24項目であった。</p> <p>生徒の肯定的回答率が高いもの</p> <p>2. 自分の学級は楽しい (92%)</p> <p>3. この学校には他の学校にない特色がある。(94%)</p> <p>保護者の肯定的回答率が高いもの</p> <p>2. 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている。(93%)</p> <p>5. この学校は他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる (96%)</p> <p>21. 学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている。(89%)</p> <p>26. 子供は学校に友達がいると言っている。(97%) ほか、90%台が49項目中3項目、80%台が17項目。</p> <p>【分析】生徒の「学校・クラスが楽しい」という意見を非常に多くの生徒が持っていることがわかる。また、国際科学高校である本校の特色をほとんどの生徒が実感している。また、保護者の回答回収率は6割を超え、そのうち8割を超える肯定的回答が20項目に上ることから、大部分の保護者が本校の取り組みに対する理解・賛同を示していただいていることがわかる。その一方で「学校からの文書連絡」や「学校の設備面」については肯定的意見が少なく、この結果は昨年同様である。学校からの発信文書は学校のホームページ上で各学年、進路指導部、保健室に分けてみていただけるようにし、校長ブログでは毎日学校の様子を発信している。また、設備面の課題は学校だけでは解決できないものもあるが、学校で可能な範囲で対応していきたい。</p>	<p>第1回 (6月23日(火)実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立大学の実力も高まっている。国公立大学への進学一辺倒ではないアピールも必要では? 「帰国生枠」や「SSH枠」の指定校推薦や関東や海外の私学をめざす生徒もいるのでそういった生徒の進路保障をしていく。 ・報告により先生方の苦心がよくわかった。進学もばらつきなく全ての生徒に対応していただいている。昨年度は遅刻の多さに驚いたが、今年は改善が数字に表れていて素晴らしい。自転車にもいち早く取り組んでいただいていることに感謝。 ・SSHを3期でも更新をという要望をよく耳にする。更新への手応えは? SSHでは国際文化科のように見てわかる成果があればいいのだが。大学でも取り組みたい研究に予算を獲得するのが上手な研究者がいる。ポイントの強調が必要。アブリナ科やクラゲの研究は有望であり、英語での論文作成も視野に入れていいのでは。 ・地元から理解され進学実績の伸びた学校には、遅刻の減少・英語力の増強・センター受験数の増加という共通点がある。住吉高校に入学時点では京大を目指す生徒も複数在籍している。それらの生徒を伸ばすことが、地域からの賛同を得ることにつながる。 ・高等学校のデジタル化・ICTの現状はどうか? タブレットは小中ではもう積極的な活用が始まっている。スカイプをSSHにも活用するのは? →台湾の姉妹校とSSH課題研究において共同で実験をしたり、意見交換を行う予定。担当者間で調整していく。 <p>第2回 (平成27年10月9日(金))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(大学指定校合格者一覧を見て) 指定校は文科系が多いがなぜか? (学校側の回答: 募集も文系が多い。指定校を目指すことを勧めてはいない) ・遅刻が成績につながるという話があるが、入室許可制度のデメリットがないか検討してほしい。唯一のデメリットと言えば、まれに電車の遅延の際に入室許可証を待つ生徒の列ができ、1限の授業に間に合わないことである。しかし、その他はなく、遅刻件数が前年度の半数以下となる2000件台になったことは特筆すべきことである。 ・テニスコート前の、住吉高校生以外の違法駐輪については所管に働きかけてほしい。 ・理系の生徒の事業実績が弱い。SSHに対する助言等はできているか。SSHの死守は必要か。万一の場合の対策が必要ではないか。→今年度は京都大、大阪大の理系に現役の生徒が合格した。また、SSHの特色ある取り組みが魅力で本校をめざす中学生もいる。何としても3期目を狙いたい。 ・高校へ行ったら自由という感覚を中学生は持っているので、1年次の指導は大切。小学校で理科を上手に指導できる教師が少ない。小学生に理科の楽しさを教えるべき。小中学校と定期的な交流ができれば効果的では。→すでに近隣の中学校の担当者と次年度の打ち合わせをし、複数回中学生を招く予定である。また、近隣の小学校とは夏休みの実験教室を継続予定である。 ・大学からのアドバイザーを制度的には可能なか。大学からのサポートも活用できればよい。 <p>第3回 (平成28年3月22日(火))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27年度評価に係り、平成27年度進路結果、「骨太の英語力」養成事業、国際交流、SSH、ユネスコスクール、生活指導についてそれぞれ意見を得た。特に英語・国際教育、SSH等の成果が見られるものについては今後も継続を、生徒の進路実現や遅刻指導は一定成果が出ており、さらなるキャリア教育、生徒指導の充実等について意見を頂いた。 ・28年度計画案については、住高の強みをさらに生かした取り組みの充実が求められた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上の取組み強化	<p>(1)「わかる授業」をめざして、教科指導力の向上</p> <p>ア 授業アンケートの活用と公開授業の促進</p> <p>イ. ICTを活用した授業の推進</p> <p>(2)進学指導の充実</p> <p>ウ 放課後、土曜日の補習・講習の充実</p> <p>エ. 自習室の活用を推進</p>	<p>ア・SIC(住吉改革委員会)内に指導力向上委員会を設置し、授業アンケート分析を踏まえた改善のための面談を行う。全教員への意識啓発と年3回以上の相互公開授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員への教科指導力向上の公開授業を推奨し、首席主催の指導力向上委員会を開催し、若手への組織的支援体制を強化する。また、今年より校長が原則月1回新採3年目(必須)までと転勤2年目(希望)の学習会を行う。 イ・IT 機器や、タブレット型PCを強化し活用を進める。 ウ・教員による放課後、土曜の補習・講習会を全体的に進める。主要5教科の実施をめざす。 ・PTA主催の教育産業による土曜講習会を本年度も実施し、2クラス同時開講をめざす。 ・教育産業との連携を強化(各学年3回は全員に模試を行う。3年生はさらに希望者に対し2回実施する)し、3年間を見通せる進学指導をする。 エ・現在の本館自習室は3年生が使用、一年生・二年生の北島会館自習室を更に活用する工夫を行う。 	<p>ア・学校教育自己診断、授業アンケートで「授業がわかる」の回答率80%を目標。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の研修満足度80%以上を目標。 ・校長の学習会に対しては、若手教員にアンケート結果で判断する。 <p>イ・タブレット型PCの活用教員率、30%を目標。</p> <p>ウ・放課後等の進学講習・補習の開催を5教科で実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA主催の教育産業による土曜講習会を本年度も実施。参加生徒数は100名以上を目標。 ・教育産業との連携で、偏差値アップと国公立大学進学希望者を増加させる。センター試験受験者を前年度比20%アップを目指す エ・一年・二年の北島会館自習室活用を2割増を目標。 	<p>ア・授業内容に興味・関心を持った: 81% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能が身についた: 82% と目標を達成している。(○) ・4回の研修と、数度にわたる授業見学を行った。また、学校案内を作成させた。若手教員の研修結果は満足度が <p>イIT機器を使用し授業を展開しているものは33%(20名)と目標は達している。(○)</p> <p>ウ・特に三年は英語、数学、国語と早朝・放課後と積極的に展開した。また1・2年においても夏季集中講座を展開した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日講習は40名と大きく目標とはずれた。指定校推薦希望者増加と講習受講者の減少が次年度の大きな課題であると認識している。(△) ・センター試験受験も前年度比87%と減少(△) <p>国公立 理系平均点 550→540 最高712→797 文系平均点 568→599 最高729→763</p> <p>エ・学年全体で取り組み例年並みに自習室は稼働した。(○)</p>

府立住吉高等学校

<p>2 国際・科学高校としての取組み強化</p>	<p>(1)グローバル人材育成の強化 ア TOEFL 対策の Super English の開講を維持 イ土曜 TOEIC 講習の維持とハイスコア生徒の育成 ウ使える英語力の向上と英語ディベート等の充実 (2)国際交流・海外語学研修の充実 エ これまでの8事業の維持と円滑な運用 (3)SSHと連携した取組みの実施 カ SSH 事業の海外校が参加する国際科学発表会</p>	<p>ア・TOEFL 対策科目「Super English」に生徒 60 名以上、昨年度に続いて2クラス以上開講を目標。 ・受講者の平均スコアを府平均の 10 点越えを目標とし、80 点台生徒を4名、60 点以上 25 名を目標。 ・SET との連携を強め、一層の TOEFL 対策を考える。 イ・保護者の要望により土曜 TOEIC 講習会を実施する。 ・受講者の平均スコアを 550 点越えを目標とし、また、700 点台生徒を複数育成する。 ウ・英語ディベート大会の公開を行い、他校とのディベート大会の開催(かなりハードルが高いので委員会事務局とも連携し)を目標。 エ 労力対効果を考慮しながら、より実績が上がるよう工夫する オ・SSH 事業として韓国・台湾から高校生・教員を招聘する国際科学発表会の開催を継続し、その内容の充実をめざす。 ・国際科学会議に向け、日常的に科学英語力の強化を図る。夏季休暇に「理科英語」の集中講座・英語でのディベートのための研修を設定する。</p>	<p>ア・TOEFL 対策科目の開講を2クラス以上をめざす。 ・平均スコアが府平均を超え80 点台4名、60 点以上を25 名を目標。 ・保護者の要望により実施 ・TOEIC の平均スコアが 570 点を超えることが目標。 ・700 点台取得者複数育成。 ウ・英語ディベート大会を実施し、他校からの見学者を勧誘。複数校の参加を目標。 エ ・生徒の満足度 90%以上 オ・韓国・台湾からの高校生を招聘した国際科学発表会の開催を継続。評価アンケート結果の満足度 100%達成 ・校内での科学英語のプレゼン活動を実施。</p>	<p>ア・従来水曜日の開講であったが今年水曜日・金曜日に開講 ・第一回目 50 点以上 6 名 最高 59 第二回目 50 点以上 5 名 最高 71 第2回は機器の不調があり正確な測定ができなかった。次年度は実施に当たり入念な準備を行う。結果として当初の目標値には到達せず(△) ・TOEIC の結果は平均スコアが 417 で目標をクリアしなかった。(△) ・ただし 800 点を超える生徒が1名。講習等の成果が現れつつある。 ウ・見学者はあるが、他校生徒の参加は実現できなかった。(△) エ・ オ・韓国招聘は交渉を続けているが、セオウル号事件等の影響で実現していない。形態を含め考える。台湾とは良好な関係で、国内からも2校が参加。(○) 生徒による評価アンケートでは「内容の理解」の項目においては8割が肯定的、「企画の面白さ」、「興味・関心の増加」、「取り組みの度合い」の項目においては9割が肯定的な回答をしている。(○) ・ポスターのアブストラクトは全員英語を使用。またSSEを通じ英語でのプレゼンの授業を継続。(○)</p>
<p>3 人権教育の観点で豊かな国際感覚の育成と自律心の醸成</p>	<p>(1)ユネスコ・スクールの特色を生かす活動を強化 ア海外研修、国際科学発表会等の活動でユネスコの特色を発揮 イ 国際交流を通じて、体験的に共生意識を育む (2) マナーの向上と社会的規範意識の醸成 ウ 時間を大切にする取り組みを行う。TPO に応じた標準服着用指導と頭髪指導を強化する。</p>	<p>ア・ユネスコスクールとの国際交流校を積極的に拡大し、国際交流機会を増やす。ESD 教育の成果を、具体的に「見える化」する方向を探る。 イ・本校の帰国渡日生を支援する GL(グローバルライフ)委員会の活動を充実させる。 ・HR活動を中心に生徒の多様な人権学習を維持。 1 年での在日生のカミングアウト、本名使用の強い指導、LHR での人権講演会は年間8回を維持する。 ウ・「住吉是」・「挨拶をする・時間厳守・公共の場の清掃」の徹底を図る。具体的には ・挨拶の励行 ・遅刻指導 ・集合等の時間厳守 ・公共の場を、「きれい」から「快適に」をめざす。</p>	<p>ア・「見える化」の具体例を出す。 イ・HRでの生徒人権研修を年間開催8回を維持。 ・教職員向け人権研修会の年間開催3回を維持。 ・教員研修の内 1 回は、新しいテーマとし、時代に応じたテーマで実施。 ・教職員の人権研修会の全員参加が目標。 ウ・引き続き遅刻指導の強化、年間 3000 件台を目標 ・定期的な頭髪指導と、効果的な標準服着用指導を実施。</p>	<p>ア・カンボジア研修の成果を、ユネスコ委員会主催、「ワンワールドフェスティバル」においてポスターセッション優秀賞受賞。また他の高校や近隣の小学校でもプレゼンを行った。(○) イ・1・2年各3回、3年2回実施 ・教員向け全体研修は1回。各学期校長から訓話をした。(○) ・LGBT研修が必要になり、またSETの配置により、教員間の「異文化理解・受容・共生」等が課題になってきている。(△) ・全員参加 ウ・年度末で 2000 件台と大きく指導が前進した。また校内も見違えるほどきれいになり、挨拶も自然にできるようになった。この点に関しては非常に喜んでいる。 ・上記のような変化に伴い、頭髪や服装においても高校生活にふさわしいものになってきている。(◎)</p>